

辺野古の新たな護岸工事着工に断固抗議する(談話)

2017年11月7日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

沖縄防衛局は6日、名護市の辺野古崎西側のK1とN5の2か所で新たな護岸工事を開始しました。

先の総選挙で、辺野古新基地反対を掲げる「オール沖縄」候補の4区中3区での勝利に示された民意を無視し、工事を強行する安倍政権・沖縄防衛局の暴挙に断固として抗議し、即時中止を求めます。

この両護岸の海域では、今年7月にサンゴが見つかり、沖縄防衛局によるサンゴ移植の許可申請を沖縄県が審査している中での強行であり、環境保全措置についての協議を求める県の行政指導も無視したものです。

安倍政権は、今回の護岸工事も、これに先立つK9護岸の工事についても、沖縄県知事の岩礁破碎許可を得ないでおこなうために水産庁による法令解釈を変えて強行しています。これに対して翁長知事は、国の違法工事の差し止めを求めて裁判闘争をすすめています。このような、安倍政権による度重なる法令無視の暴走は断じて許されません。

しかし、辺野古新基地工事について安倍政権に展望があるわけではありません。316メートル予定のK9護岸工事が100メートル程度で停止していることにみられるように、工法変更などへの県知事や名護市長の許可権限の前に、本格的な工事は阻まれています。そうした中での今回の「着工」は、「工事進展」をアピールし、来年2月の名護市長選挙で基地問題を「決着済み」と装うためのものといえます。

安倍政権による辺野古新基地建設強行の暴挙をやめさせるために、当面する名護市長選挙で稲嶺市長の三選を必ず勝ち取ることをはじめ、沖縄と連帯する全国での運動を広げる決意です。

以上